

中古品整備事業を開始

X線CTスキャン装置など

マークテック

アルコニックグループで非破壊検査装置やマーキング装置を手掛けるマークテック（本社＝東京都大田区、西本圭吾社長）は、X線CTスキャン装置など機械装置のリファビッシュ（整備済み）事業を開始した。高価で購入のハードルが高い検査装置の間口を広げ、拡販にもつなげる考え。大手リース会社三菱HCキャピタルと協業し、エレクトロニクス産業の顧客を開拓する。市川大介常務執行役員営業本部長は「5年後までに年間15セットの受注を目指す」と意気込む。

半額で販売 リース大手と協業

同社は装置を所有するなどの整備を行う。多くの顧客から中古装置をメンテナンス完了品を三者の手でわたる。同社はX線CTスキャン装置で世界大手の

検査も手掛ける。近年、品質への要求が高まる中、量産品の急な検査が必要となる顧客も見られ、装置導入のニーズが拡大。だがX線CTスキャンは億単位の価格も珍しくなく、価格が導入のハードルだった。

X線CTスキャン装置などの導入を促す



X線CTスキャン装置などの導入を促す

リファビッシュ品の使用可能期間は交換する部品にもよるが、新品と変わらない5〜10年だ。これまでリユース品として4セットの販売実績があるという。同事業ではエレクトロニクス産業に強い三菱HCキャピタルと手を組む。従来取引が少なかった半導体関連の顧客とも接点を増やす

狙い。逆に三菱HCキャピタルはマークテックの顧客基盤である鉄鋼など重工業関連の顧客との取引拡大が期待できる。

同社のタイ工場を拠点に、東南アジアでの拡販も図る。当面、同社は最終購入者が確定してからリファビッシュのプロセスを実行する方針だが、タイ工

場ではリファビッシュ品の在庫販売も行う考え。新旧双方のコンピュータ製X線CTスキャン装置を販売する。X線CTスキャン装置以外では今後の需要拡大が見込まれる3Dプリンターや三次元測定機を検討。条件を整備し、2〜3年以内の参入を目指す。自社製では浸透探傷装置や磁粉探傷装置を提案している。現在、X線CTスキャン装置など大型の機械装置は新品市場が大半を占める。市川常務は「リファビッシュで顧客の導入ニーズと資源の再利用を両立し、社会的課題を解決したい」という。中古市場を活性化させ、循環経済の実現に貢献する構えだ。

株式会社産業新聞社 発行

日刊産業新聞 第21005号 (2024年9月3日)